

問い合わせ先
海洋情報部監理課
監理課長 木之瀬 樹
TEL099-250-9800(内線 2510)



平成27年8月31日
第十管区海上保安本部

海図で見る鹿児島湾の今昔 ～鹿児島湾の新旧海図等を展示～

第十管区海上保安本部では、水路記念日（9月12日）の記念行事として、「鹿児島市立科学館」において、鹿児島湾の伊能図及び明治から現在までの海図などを展示します。また、期間中「海の相談室」を開設し、海に関する様々な質問にお答えします。

1. 展示期間

平成27年9月9日（水）～14日（月）
開館時間：午前9時30分～午後6時

2. 展示場所

鹿児島市立科学館2Fエントランスホール
住所：鹿児島市鴨池二丁目31番18号
連絡先：(099) 250-8511



2Fエントランスホール

3. 海の相談室

平成27年9月12日（土）・13日（日）、午前9時30分～午後6時

4. 取材対応

現地取材の際は、9月8日午後5時までに、海洋情報部監理課までに、お知らせ願います。

5. その他

見学は無料です。
展示物は別紙1のとおり。

※ 水路記念日とは、明治4年（西暦1871年）9月12日に兵部省海軍部水路局（現在の海上保安庁海洋情報部）が誕生し、我が国の海図作製が開始された日です。詳しくは、別紙2を参照下さい。



1. 伊能図模写図 二百九号薩隅内海圖
(209 ござつぐうないかいず)
(1809年(文化6年)測量)



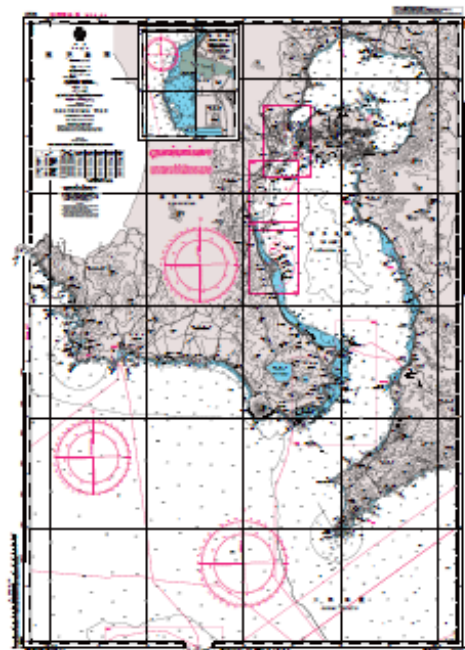
2. 海図番号26号 鹿児島海灣
(かごしまかいわん)
明治32年1月刊行



3. 海図番号221号 鹿児島海灣
大正9年2月刊行



4. 海図番号W221号鹿児島湾
平成26年12月刊行



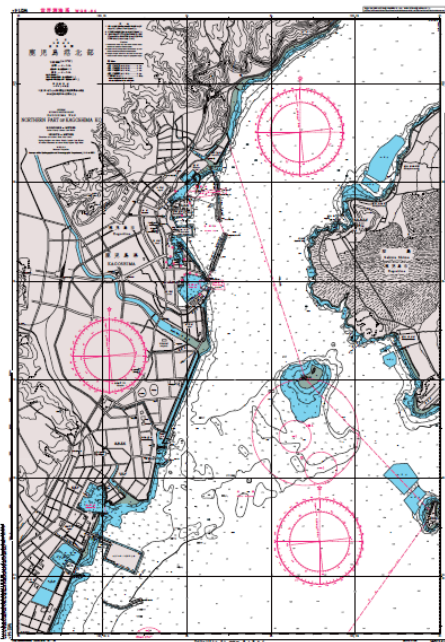
5. 海図番号214号 鹿児島港及付近
大正6年刊行



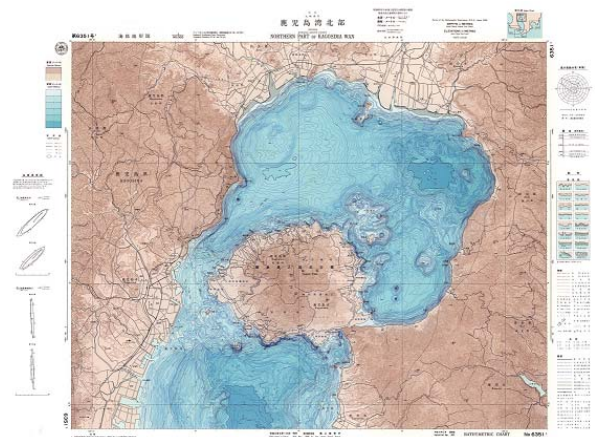
6. 海図番号214号 鹿児島港
昭和15年刊行



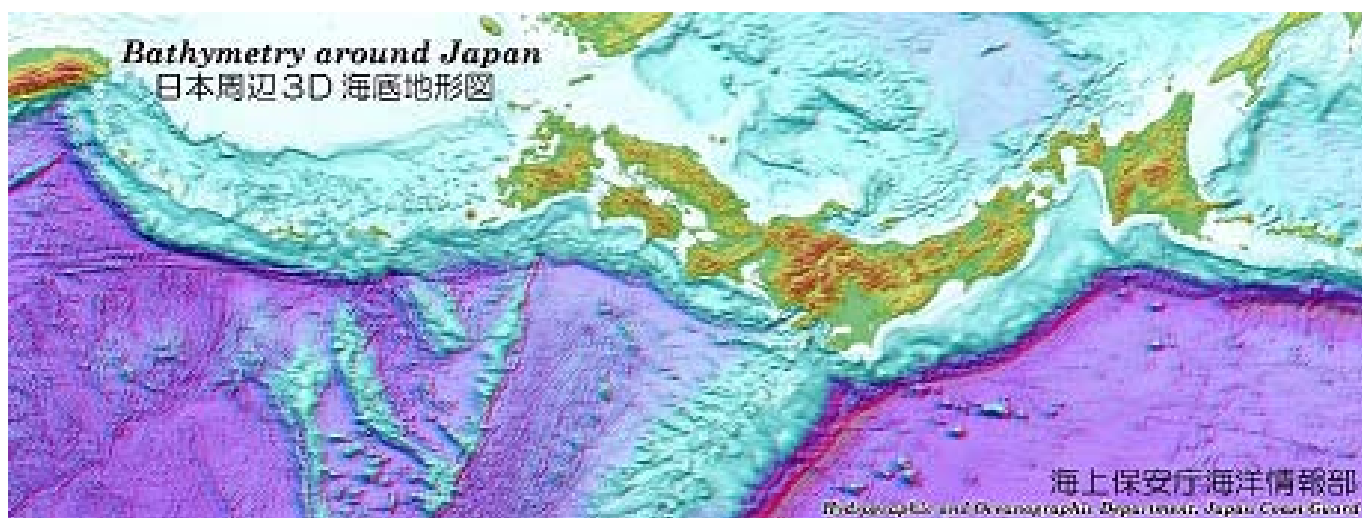
7. 海図番号214A鹿児島港北部
平成25年12月刊行



8. 沿岸の海の基本図 番号6351
鹿児島湾北部(海底地形図)
平成2年3月刊行



9. 日本周辺 3D海底地形図

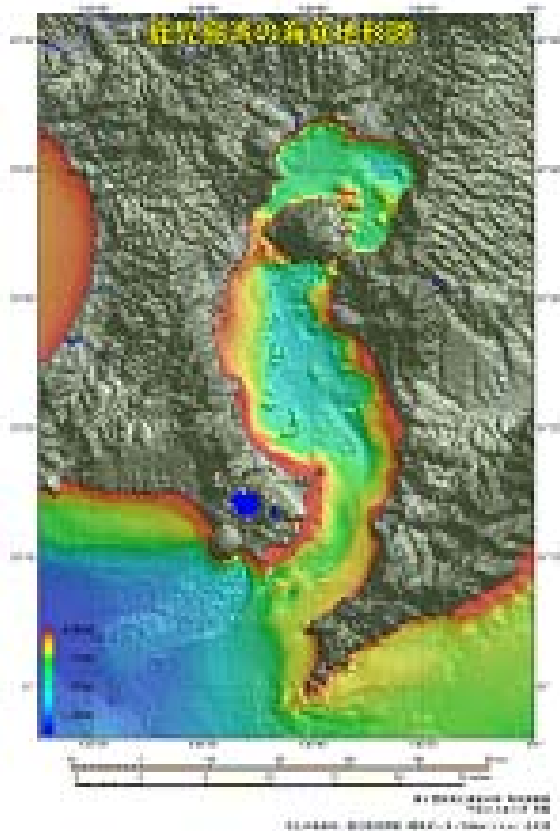


10. その他

鹿児島湾の海底地形図

十本部海洋情報部作製

平成24年4月作製



海洋情報の業務は、今年で144年を迎えます。

1. 水路記念日について

今から144年前の明治4年（西暦1871年）9月12日（旧暦7月28日）日本が独自で海図を作製するために海洋情報部の前身である兵部省海軍水路局を設置しました。この日を記念して水路記念日が制定されました。

2. 我が国初の海洋調査機関

当時の実務は、勝海舟らとともに長崎海軍伝習所においてオランダ式の航海・測量術を学んだ柳権悦（やなぎ ならよし）を中心として東京築地の海軍兵学寮（後の兵学校）で現在の水路業務の基礎がスタートしました。

当時、日本沿岸の安全を図るための海図作りが、わが国の緊急課題でした。

水路寮、海軍水路局、海軍水路部などと名称は、変更してきましたが、明治21年からは海軍の冠称をやめ、単に「水路部」と呼ぶようになります。

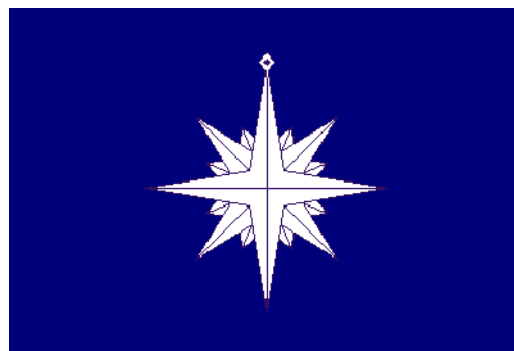


初代 水路部長 柳 権悦

3. 海洋情報部

終戦とともに「水路部」は運輸省に移管され、昭和23年海上保安庁発足によりその一翼となりました。

平成14年4月1日、「IT技術の進展に伴う情報提供体制の強化」、「海洋環境問題への適切な対応」、「国際対応能力の強化」を大きな目的として、「海洋情報部」と改め組織全体の大幅な見直しをしました。



4. 第2代・第4代水路部長 肝付兼行（1853～1922）について

明治21年6月、初代水路部長柳権悦の跡を継いで、鹿児島県出身の肝付兼行（きもつき かねゆき）【上級薩摩藩士の肝付家（喜入5500石）に生まれ、明治維新で活躍した薩摩藩士小松帯刀の甥にあたる。】が、第2代水路部長に就任しました。

肝付兼行は、明治5年に19歳で入局して以来、海軍観象台（国立天文台の前身）の業務や全国海岸測量の実施などに尽力し、その功績は水路業務史上特筆されるほど大きいものでした。水路部は在職中の功績を記念するため、その手で測量し刊行された海図一揃いを薄紙刷りにして、明治39年に肝付兼行に寄贈しました。

ところが、その死後、大正12年9月の関東大震災により水路部所有の海図が類焼したため、これを聞いた遺族肝付兼英が、寄贈を受けた一揃いを再び水路部に寄贈することとなりました。水路部は、当時すべての資料を失っていたので、これが貴重な海図となり、今日でも「肝付海図」として本庁海洋情報部に大切に保管されています。



第2代・第4代
明治21年4月～同25年12月
明治21年6月～同38年11月
海軍中尉 肝付兼行

略 歴

幼名 江田船太郎

明治2年（17歳）から北海道開拓史、明治5年水路局に入り海軍中尉大伴兼行を名乗る。水路部長、海軍大学校長を歴任し、退役後の大正2年には大阪市長、大正11年70歳で没。